

---



---

 ニ ュ ー ス
 

---



---

### 情報処理学会国際連合の第2回総会

IPSの第2回総会が、第6回国際計数センター会引続き昭和36年2月14、15両日西ドイツのダルタットで開催されることが決り、2月10日理事山下会長がこれに出席することを決定した。本会は1960年中における事業、経理の状況が報告され、1961年中における事業、予算の審議がなされるが、1962年ミュンヘンで開催される第2回国際会要領、発表論文の選定の方法などが決定される予ある。またこの際行われる展示会についても、その領が決定されるので、当学会としても今後の運営に一段と注意をする必要が生じてくる。また本会際ISOおよびIECと協同して決定することになっている計算機に関する用語の調査委員会も開かれ本会合の様子は会誌次号に詳細に報告される。

### 数理科学総合研究の報告会開催さる

部省科学研究補助金をうけた首題研究グループの会が下記の如く開催された。

時：1961年2月24日（金）

場：東京大学工学部大講堂

告 秋月康夫(京大・理)  
究発表

藤清三(東大・理) Navier-Stokes の方程式  
橋秀俊(東大・理) 電子計算機の国際語をめぐる

屋 茂(立教大・理) エサキ・ダイオードを含む回路

村敏男(法政大・教養) 証明のプログラミング

沢尚明(京大・理) ローレンツ群の表現論

田信行(京大・教養) 拡散過程

川敏男(九大・理)・平井平八郎(阪市大・工)}  
居善代治(阪市大・工)・北嶋靖三(阪市大・工)}

Evolutionary Operations Program と最適化制御の試行装置

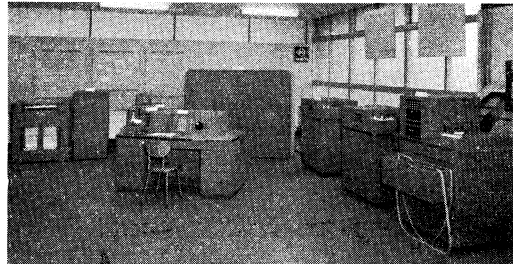
村知男(慶応大・法) Queue の数表について  
閉会の辞 山内恭彦(東大・理)

### 沖電気工業の新しい電子計算機展示会

2月21日、沖電気工業では小形電子計算機システムOKI TAC-5090を今春発売すると発表し、同時に下記の如き3種類の電子計算機および一連の電子計算機周辺機器の展示会を行なった。

#### OKI TAC-6020 電子計算機システム

2400語の磁気ドラムの電子計算機を中心に、磁気テープ装置、カードリードパンチ、ラインプリンタ等を配した中形データ処理システムで、これら入出力装置と計算機本体の間の情報のやりとりは専用の磁心記憶装置で行なわれる。基本回路はダイナミック回路である。



#### OKI TAC-5080

紙テープ入力 of 科学技術計算用小形電子計算機で、光電式テープリーダ、ラインプリンタ等の高速入出力装置がついているのと、記憶装置1000語が磁心のみであることが特長で、基本回路はスタック回路である。

#### 関連々数計算機

パラメトロンをもちいた関連々数計算用の専用計算機で、データは双頭のテープリーダから入り、標本数と、10組の計算結果がタイプライタにうちだされる。

展示会では6020はさん孔タイプライタ、誤字訂正装置、テープツーカーダ変換機等とともに一連のエロアシステムを構成し、地方工場と本店における在庫管理事務処理を実演していた。発表された周辺機器のうち主なものは次の如くである。

#### カードリードパンチ

80欄カードについてのリード部2カ所とパンチ部をもったもので、最高処理速度は毎分150枚である。

#### カードリーダ

80欄カードを毎分 500 枚の速度で読み取るものでチェック用の第 2 リード部がある。

#### さん孔電動タイプ

電動タイプライターにさん孔テープ用リーダーおよびパンチを取付けたもので速度は毎分 500 字。

#### テープパンチ付手動タイプライター

#### リール付光電式テープリーダー

リールにまきつけられたさん孔テープを読み取るもので、テープは前後いずれの方向にも動かすことができる。速度は毎秒 200 字。

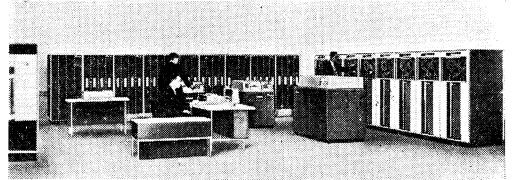
### IBM 7070 型電子計算組織，日立製作所 日立工場に設置

IBM 7070 型電子計算組織の，日本における第 1 号機が，本年 1 月 15 日，日立製作所に搬入され，現在稼動中である。

この 7070 型電子計算組織は，大量の事務の高速処理に適した汎用大形電子計算組織であり，主記憶装置の記憶容量は，9990 語（1 語は 10 桁と符号よりなる）で，現在日立のものにはついていないが，補助記憶装置として，60 万桁または 120 万桁の磁気ディスク装置が，最高 4 台までとりつけられる。主記憶装置の平均

呼出時間は，6 マイクロ秒で，演算は固定小数点方式であるが，追加装置として浮動小数点演算装置がついているので，浮動小数点方式による演算もできる。

磁気テープ装置は現在 729 型のモデル IV が 8 台設置されているが，これは最高 40 台までとりつけられ，他の入出力装置（カードリーダー，カードパンチ，プリンタ等）との同時併行処理（SPOOL 処理 Simultaneous Peripheral Operation On-Line）ができる。



命令は 1 アドレス方式で，基本的なものは 100 種類程度であるが，これを複合せせることにより 2400 種類以上になり，99 箇のインデックスレジスタと浮動小数点演算装置が使用できるので，事務処理のみならず複雑な科学技術計算に適用できる。しかも AUTO-CODER, FORTRAN 等のプログラミング方式が準備されているので，プログラミングは容易である。

## 会誌への寄稿規定

- (1) 寄稿者は原則として本会会員に限る。
- (2) 本会所定の原稿用紙（申込み次第送付する）に執筆のこと。（雑誌 1 ページは本会原稿用紙で 7 枚）
- (3) 寄稿の種類
  1. 論文（長さは刷上り 6 ページ以内，題目，著者名，所属の英訳を付ける）  
学術および技術に寄与する新しい研究成果
  2. 紙上討論（長さは刷上り 1 ページ以内）  
本会誌に掲載された事項に関する討論およびそれに対する原著者の回答。
  3. 寄書（長さは刷上り 1 ページ以内）  
論文とするほど纏まったものではないが，学術および技術に寄与する新しい研究成果あるいは考察など。
  4. 会員の声（長さは刷上り 2 ページ以内）  
学術または技術について会員一般の関心を

- 促すための意見，本会の事業および動向に対する批判や意見など。
5. 文献紹介（長さは刷上り 0.5 ページ以内）  
紹介したい原著の題目を学会に照会の上，寄稿せられたい，掲載の節は謝礼を呈する。
6. ニュース（長さは刷上り 0.5 ページ以内）  
ニュース源の紹介，ニュース記事のいずれでもよい。掲載の節は謝礼を呈する。
- (4) 寄稿の採否  
採否は常務理事を含む幹事会で決定する。また要旨だけ掲載する場合もある。前項 1 および 3 に該当するもので，本会受付前に，他の公開出版物にはほぼ同じくらい詳しく掲載されたものは，原則として掲載しない。
- (5) 原稿の送付先 東京都港区芝西久保巴町 35  
電子工業振興協会内 情報処理学会
- (6) 論文別刷 50 部著者に贈呈。それ以上は有料。